いわて復興だより

がんばろう！岩手、つながろう！岩手

三陸復興

第 50 号
（平成 25 年 10 月 15 日号）
岩手県

復興に向けて歩んでいる岩手の今を紹介します

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切にしていきたいと思います。

「いわて復興だより」も通算 50 号を迎えました。ご愛読ありがとうございます。

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します。

「第2回復興の現場見学会」が開催されました　釜石市

10 月 3 日（木）、釜石市で「復興の現場見学会（主催：岩手県沿岸広域振興局）」が行われました。

この見学会は、東日本大震災津波で被災した現場の復興の現状を住民に理解してもらうことを目的としたもので、平成 25 年 8 月に続き今回が 2 回目。釜石市及び大槌町の住民、計 39 人が参加。釜石市内 4 ヶ所の復興状況を見学しました。

片岸仮置場での作業の様子

水海海岸災害復旧工事現場

双日食料水産株式会社釜石工場

水産加工業を営んでいた同社は、大槌町安渡（あんど）で被災。現在は釜石市鵜住居（うのすまい）町に移転し、鮭フレークの製造等の事業を再開しています。

震災前の取引先は 100％回復し、生産量は震災前ピーク時の 70％程度までに回復。

参加者たちは、普段見ることのできない工場内部を見学し、復興の状況を確認していました。

片岸（かたぎし）仮置場（災害廃棄物中間処理施設）

参加者はバス車内から災害廃棄物中間処理施設を見学。コンクリートや木くず、金属くずなど、様々な物が混じったがれきの選別作業等の説明を受け、災害廃棄物処理の進捗状況に理解を深めていました。

釜石市によると、市内での災害廃棄物発生推計量は約 78 万トン（釜石市内の一般ゴミ約 50 年分に相当）。仮置き場への搬入量は 99％、そのうち 82.3％が処理済み。(※)平成 26 年 3 月末までに処理を完了する予定です。

水海（みずうみ）海岸災害復旧工事現場（防潮堤の復旧）

岩手県所管の防潮堤の中で、地盤かさ上げからの全面復旧に着手した工事第 1 号の現場を見学。

現在、防潮堤の右岸 18％、防潮堤の左岸 5％、水門補強 70％の進捗状況で、平成 24 年 12 月からスタートした工事は、平成 28 年 3 月末までに終了する予定です。

釜石魚市場

釜石市では、魚河岸地区にある中央魚市場等の全施設が全壊、新浜町魚市場が損壊、第 2 魚市場の製氷・貯氷工場の機能が停止するなど多くの被害を受けました。

そんな中、新浜町魚市場では平成 25 年 4 月から、大型漁船の水揚げが可能となりました。また、魚河岸地区を衛生管理型市場として整備し、平成 28 年度の完全復旧を目指します。

早期の水産業の復興とまちづくりが期待されます。

※ 数値は平成 25 年 8 月 31 日現在のものです

山田町の山田地区で復興まちづくり事業がスタート　山田町

山田町の中心部に位置する山田地区において、復興まちづくり事業（土地区画整理事業、津波復興拠点整備事業、防災集団移転促進事業）がスタートしました。

10 月 2 日（水）には、被災して運行を休止しているJR 山田線の陸中山田駅周辺で、安全祈願祭が開催されました。

安全祈願祭の会場

今回の復興まちづくり事業では、高台を造成し、住民の高台移転の促進や消防署、病院等の防災拠点の整備をするとともに、市街地の土地のかさ上げによる復興まちづくりが行われる予定です。

これは住民の方々が安心して暮らせる、津波に強いまちづくりをしようというもので、平成 28 年 4 月末の工事完了を目指しています。

今回の工事は、共同事業体に発注したもの。設計者と施工者を一括して選定する「CM 方式」を採用しており、入札期間の短縮等による工事の速やかな進行が期待されます。

いわて復興応援団（員）大募集中！

知って、買って、食べて、行って応援！

登録無料

首都圏等にお住まいの方を対象に、応援団員（個人）と応援団（法人及び団体）の登録を募集しています。登録者には岩手県の復興の取り組みや観光・物産・首都圏でのイベント情報などをお届けします。

詳しくは岩手県東京事務所ホームページをご覧ください。 いわて復興応援団　検索

いわて三陸鎮魂復興祭

～三陸でむすぶ、にっぽんのこころ～が開催されました

宮古市

9月28日（土）と29日（日）、宮古市日立浜町の奥浄土ヶ浜特設会場で、「いわて三陸鎮魂復興祭」が開催されました。これは、東日本大震災津波犠牲者の鎮魂と三陸地域の復興を願って開催されたもの。

このイベントには、岩手県沿岸の全市町村から郷土芸能14団体が参加。名勝・浄土ヶ浜をバックに、祈りを込めた舞や演奏を披露しました。

イベントの最後には、歌舞伎役者の中村勘九郎さん、七之助さん兄弟が出演。軽やかで息の合った舞踊を披露し、約2,000人の来場者を魅了しました。

開演前、中村さん兄弟は「父（中村勘三郎さん）は、病気じゃなかったら真っ先に被災地に行って、踊って、皆さんに元気になってもらいたいとずっと言っていた。今日は、父の想いも重ねて踊りたい」と三陸への想いを語りました。

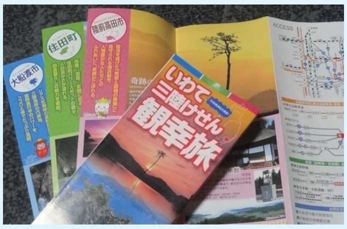
中村勘九郎さん、七之助さんによる舞踊

「いわて三陸けせん観幸旅」が発行されました

岩手県沿岸広域振興局の大船渡地域振興センターは、「いわて三陸けせん観幸旅」を発行しました。これは、気仙地域（陸前高田市・大船渡市・住田町）の観光協会・市町等で構成される「三陸・けせん観光協議会」の協力を得て作られたもの。

震災後初となる気仙地域の観光ガイドで、観光名所をはじめ復興商店街等を掲載。気仙地域の魅力や復興状況を知ることができます。

県内の道の駅、気仙地域の観光案内所等で配布。また、ホームページからダウンロードも可能です。



いわて三陸けせん観幸旅　検索

未来のさんりくびと

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。

第7回目は、金野 智子さんを紹介します。

PROFILE

大船渡市赤崎町出身。高校卒業後、東京の製菓専門学校で製菓を学び、盛岡の菓子店等に勤務。東日本大震災津波発生当時は大船渡のケーキ店に勤務していたが、その店も全壊。

2012年8月、地元の大船渡市赤崎町の応急仮設商店街に、焼き菓子店「oiseau sweets (オアゾースイーツ)」をオープン。

仮設店舗の建設を機に独立

「自宅も、勤めていたケーキ店も、津波で流されました」と金野さんは当時を振り返ります。

被災後は、ハローワークで仕事を探し、事務の仕事等もしたそうです。

その後、赤崎町の仮設商店街の建設を機に独立を決意。

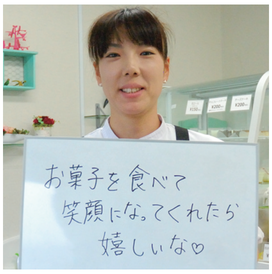
2012年8月に焼き菓子店「oiseau sweets（オアゾースイーツ）」をオープンしました。

自分が育ったまちで、クッキー量り売りの「焼き菓子のお店」を

「大船渡市は復興してきた印象もありますが、赤崎地区はまだまだ何もない、草だらけの風景です。レシピも流されてしまいましたが、どうしても生まれたこのまちでお店を開きたいと思いました。クッキーは量り売りもしてますので、1枚でも気軽に買えて、みんなが楽しんでクッキーを選べる、そんな店にしたいですね」と、金野さん。

地元を想い、お菓子を通して地域の方々を笑顔にする、そんなオアゾースイーツのこれからが期待されます。

oiseau sweets
（オアゾースイーツ）
金野 智子（きんの さとこ）さん



金野さんからのひと言：お菓子を食べて笑顔になってくれたら嬉しいな

oiseau sweets　住所：大船渡市赤崎町字生形15-7
TEL：0192-47-4344

岩手県の被害状況　平成25年9月30日現在

- ▶人的被害　死者：4,672名　行方不明者：1,144名
- ▶建物被害（住家のみ、全半壊）　25,023棟

被害状況等の詳細
義援金・寄付金の募集等　いわて防災情報ポータル　検索

皆さんのご支援、ありがとうございます　平成25年8月31日現在

- ▶義援金受付状況　約178億3,587万円（86,495件）
- ▶寄付金受付状況　約165億8,889万円（6,261件）
- ▶いわての学び希望基金受付状況　約59億748万円（10,945件）

※ 被災したこどもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富に【いわて復興だより Web】がスタートしました。http://iwate-fukkoudayori.com

いわて復興だより　第50号　平成25年10月15日　企画・発行：岩手県復興局総務企画課　☎019-629-6925
いわて復興だよりバックナンバーは　いわて復興だより　検索
編集・印刷：シナプス